

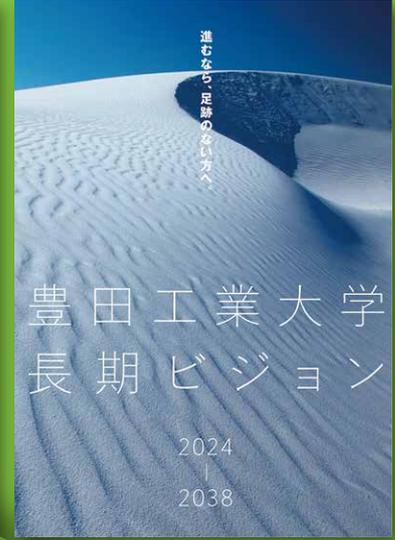
ADVANCE

TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE

vol. 119

OCTOBER 2024

豊田工業大学広報誌



CONTENTS

Summer Event 2024	02, 03
こんにちは先輩！特別編	04, 05
NEWS FILE	06, 07
決算概況	08

SCHEDULE 行事予定 (10月~2025年2月)

入試情報

■ 11月21日	大学院博士後期課程冬季選抜(一般・社会人)
■ 11月23日	学部学校推薦型選抜、帰国生徒・国際バカロレア特別選抜
■ 12月7日	学部外国政府派遣留意学生特別選抜
■ 1月11日	学部社会人(編入学)特別選抜
■ 1月18・19日	学部一般選抜(大学入学共通テスト利用入試)
■ 2月13日	学部一般選抜(一般入試)

学事

■ 12月24日~1月5日	冬期休業
■ 1月17日~24日	後期定期試験

イベント

■ 10月3日	スマート情報技術研究センターシンポジウム/ジョイントCSセミナー
■ 10月17日	スマートエネルギー技術研究センターシンポジウム
■ 11月2日	保護者懇談会
■ 11月7日	スマートビークル研究センターシンポジウム
■ 12月1日	南山大学・豊田工業大学 連携講演会

その他

■ 1月16日	開学記念日
---------	-------

特集 豊田工大でつながる 人の“輪”広がる

今年の夏も多彩なイベントを開催し、多くの方々に豊田工業大学へお越しいただきました。本学は、「開かれた大学」を目指し、地域や社会との繋がりを大切にしています。

Event 1 第41回天樹祭(大学祭)を開催(9/7-8)

昨年のテーマ「繋ぐ」で深められた人と人とのつながりや伝統の絆を、さらに強く、深く広げ、地域の皆様や他大学の方々とも「輪」として結びつきたいという思いを込めて、今年も天樹祭が開催されました。実行委員長を務めた山田裕高さんに振り返って感想を伺いました。

天樹祭実行委員長 学部3年
山田裕高さん
(一宮高等学校[愛知県]出身)



一番印象に残っているのは、実行委員1人ひとりの成長とチームワークです。開催日が夏休み明けであったため、対面でのミーティングを行うのが難しく、オンライン中心で準備を進めることになりました。そんな状況下でも、実行委員が積極的に情報を共有し合うことで、スムーズに動ける体制が自然に整っていきました。準備段階から手の空いた実行委員が他の忙しい担当をサポートする姿勢が印象的でした。また、問題が発生した際も、実行委員が単に問題点を指摘するだけでなく、代案を提案してくれたおかげで、迅速に解決することができました。初めて参加する後輩たちは最初こそ戸惑っていましたが、少しずつ自分たちでアイデアを出し、自主的に行動するようになりました。その

姿を見て、彼らの成長を感じることができたのは非常に感慨深かったです。

1人ひとりが自分の役割を超えて協力し合うことで、困難な状況でも成功に向かって進むことができる。そんなチームワークの大切さを改めて実感しました。

▼振り返ってみて感じること

昨年末に天樹祭実行委員会が発足した際、最初のミーティングで私は委員長として「来場者だけでなく、実行委員も楽しめる天樹祭をつくる」という目標を掲げました。その結果、多くの後輩たちが積極的に天樹祭実行委員会に参加してくれました。皆が責任を持って自分の役割を全うしてくれたおかげで、実行委員自身も

楽しめる天樹祭になったと感じています。さらに研究室の先生方のご協力や事務局の皆さんのサポートもあり、無事に天樹祭を成功させることができたことに感謝しています。

▼後輩達へのメッセージ

天樹祭実行委員会の活動は、やりがいがあり、達成感に満ちています。後輩たちには、これからもぜひ天樹祭に関わってほしいです。今年度参加した後輩たちには、次年度には後輩に指示を出す立場となり、より主体的に活動してもらえることを期待しています。伝統を大切にしながらも、変革を取り入れ、今年度を超える成果を目指して運営に取り組んでほしいと心から願っています。



Event 2 「愛知の発明の日」協賛企画として 小学生を対象としたモノづくり体験を開催(8/1)

今年も豊田佐吉翁の遺訓を建学の理念としている本学に県内から小学生20名を招いた見学・体験イベントを開催。参加者は学内に展示している佐吉翁ゆかりの品々(豊田式木製人力織機、米欧視察時に使用したカバン、織機の図面、特許証)を見学するとともに創造性開発工房でのモノづくり体験(オリジナルキーホルダー)に挑戦しました。本イベントは「愛知の発明の日」協賛企画として開催しています。

「愛知の発明の日」とは?

東海地区の産業の礎を築いた「豊田佐吉翁」が日本初の“動力織機”の特許を取得した8月1日を記念して、2004年に愛知県と発明協会愛知県支部が記念日として定めて以降、県内各所にて発明や知的財産について県民の皆様と共に考える日として記念講演会や協賛行事が行われています。



佐吉翁ゆかりの品々を見学

モノづくり体験
(オリジナルキーホルダー)

当日の様子はこちら



Event 3 2024年度公開講座を開催(9/7)

本学次世代文明センター主催の公開講座(後援:名古屋市教育委員会)を開催しました。今年度は大学祭期間中の開催となり、幅広い世代の方々にご参加いただきました。本講座は1983年から毎年開催しており、地域の皆様に科学技術に関する知的な話題を提供する場として定着しています。今年も約200名の参加者が会場に集い、大いに賑わいました。

今年のテーマは「伝える」。本学大学院工学研究科フロンティア材料研究室の齋藤和也教授が「光ファイバ通信から光衛星通信へ」と題して講演を行いました。日常生活に深く関わる科学技術の話題に、参加者からは「勉強になった」「わかりやすかった」といった感想が寄せられました。講演後には、愛知県立芸術大学サクソフーン専攻の学生によるサクソフーン五重奏がホール全体に美しい音色を響かせました。参加者からは「感動しました」「レベルの高い素晴らしい演奏でした」といった声が集まりました。



Event 4 同窓会・くすのき会を開催(9/7)

天樹祭初日に同窓会が開催され、多くの卒業・修了生が久しぶりに母校に集いました。当日は、教職員OBからなる「くすのき会」との合同で懇親会を実施し、約120名が参加しました。会場では恩師や旧友との再会を喜びあう姿があふれ、当時の思い出話、近況報告で盛り上がっていました。また、大学祭期間中の開催ということもあり、後輩学生との交流も見られました。卒業生が母校に戻る貴重な機会を、年1回ではありますが、ご用意していますので、ぜひご参加ください。



同窓会便り ～トヨタ自動車「久方会」を5年ぶりに開催(7/12)

卒業生の時田晋吾さん(第14期1998年度卒)と櫻木一護さん(第18期2002年度卒)から、トヨタ自動車社内で本学の卒業・修了生の皆さんで組織される「久方会」を5年ぶりに開催したとの嬉しいご報告をいただきました(「久方会」の会員数は約250名)。

当日はトヨタ学園から増田義彦理事長ほかも参加し、参加者総勢41名で大いに盛り上がったようです。今後も集いを定期的に開催できるように、在学当時の「久方寮(学生寮)」での経験を活かして、先輩主任級1名と新入社員全員が協力して幹事の運営を継続していくとのことでした。



「久方会」のさらなる発展と卒業生・修了生の皆様のご活躍を楽しみにしています

Event 5 海外協定大学学生との交流 ～TTI Summer Seminar 2024(8/22-29)

大 学間国際連携協定を締結しているアジア圏の3カ国5大学から留学生21名を招き、「サマーセミナー」を開催しました。このセミナーでは、本学の「バディ」学生が中心となり、さまざまな活動を行いながら国際交流を行いました。

2011年に始まり、今年で13回目を迎えたこのサマーセミナーは、「学術・文化交流」を主な目的としています。本学の1～3年生が「バディ」として、留学生と約一週間を共に過ごし、生活面や学内外での活動をサポートすることで、本学生にとっても国際交流と相互理解を深める貴重な機会となっています。

サマーセミナーの様子はこちら



留学生参加者数が21名で過去最多となった

Event 6 「知の探究講座」を開講(7/20)

愛知県教育委員会主催 あいちSTEAM能力育成事業「知の探究講座」の全体開講式が本学豊田喜一郎記念ホールにて開催されました。愛知の未来を担う人材の育成を目指すSTEAM(Science, Technology, Engineering, Liberal arts, Mathematics)教育を推進するため、約110名の高校生が本学はじめ名古屋工業大学など、県内6大学によるプログラムに参加し、夏休みから2学期にかけて、7日間から9日間の実験・実習に取り組みます。本学においても「自動車を支える科学技術の現在・未来～自動運転と省エネ技術～」をテーマに開催し、モノづくりや自動車に関心のある高校生10名が参加しています。





こんにちは、先輩!

特別編 Ver.4
SPECIAL ISSUE

さまざまな分野で活躍する卒業生を紹介するこの企画。今回は2017年度に学部を卒業後、2018年にToyota Technological Institute at Chicago(豊田工業大学シカゴ校:TTIC)のPh.D.プログラム(修士・博士一貫プログラム)に参加し、今夏、同プログラムにおいて博士号を取得された米田拓真さんにご登場いただきます。

米田さんには、Vol.113(2022年10月発行)号でもご登場いただきました。



■TTICのPhDコースはどのような内容になっていますか(日本との違いはありますか)?

博士号取得を目標にしたコースであり、日本の修士課程と博士後期課程を合わせた内容に相当します。卒業までには5~7年を要しますが、その間の授業料は大学が全額負担してくれます。さらに、日本円にして年間650万円前後の給付金(毎年見直しあり)が支給され、健康保険なども大学が手厚くサポートしてくれるため、生活面での心配をすることなく研究に専念できる環境が整っています。TTICは他の米国のトップ大学と比べても給付金や福利厚生が非常に充実していると思います。

最初の2年間は、主に授業を履修することが中心で、授業の課題に追われながら、少しずつ研究も進めます。2年目の終わりには「Qualifying Exam」という試験があり、これに合格すると、博士後期課程に移行し、研究が中心の生活に入ります。

研究生活では、論文を読み、指導教員や他の学生と議論を交わしながらアイデアを出し、実験から面白い結果が得られ

ば、論文を書いて学会に投稿するという流れになります。

研究の大まかな流れは、日本の大学とあまり変わりませんが、TTICで強く感じた違いは人と人のつながりです。研究室の枠を超えて、他の学生や教員と気軽にディスカッションや相談ができる環境が整っています。また、シカゴ大学の学生がインターンとして研究室に来て一緒に研究を進めたり、他大学や企業の著名研究者が定期的に講演や懇談する機会も多いです。こうした場でホンネの話を聞けるのは非常に面白い経験です。

TTICでは、「ワークショップ」と呼ばれる自前開催の小規模な学会が開催され、他大学の教授や学生が多く参加します。これも意見交換や交流を深める非常に良い機会となっています。

■TTICでは、どのような研究に取り組まれましたか?

6年間で幅広くさまざまな研究に取り組んできました。そのうちの1つは、人間が機械やロボットを操作する際に、人工知能がどのようにしてそれをアシストす



よねだ たくま
米田 拓真さん
Takuma Yoneda

- 旭丘高等学校[愛知県]出身
- 2017年度学部卒業(知能数理研究室)
- 2018年9月-2024年8月までの6年間、TTIC PhDコースに在籍
- 内定先: Google LLC(米国)

Googleの中でも、人工知能の研究を専門とするDeepMindという部門で、ロボットをより賢くする研究を続ける予定です。

るかについてを課題としました。この研究は、画像生成などでよく使われ近年注目を集めている「拡散モデル」という手法をロボティクスへ応用したものです。画像生成に使われることが多いものの、拡散モデル自体にはより一般的なデータの分布を学習し、それを再現する能力があります。私達はこれを利用して、多岐にわたる「安全な操作」のデータ分布を学習さ



せ、それを再現する過程で、入力である人間の操作を加味することで、人間の操作入力を尊重しつつ、安全な操作を実現する方法を開発しました。この他にもさまざまな研究に挑戦しましたが、どれも途中で壁にぶつかって進む方向が見えないという段階がありました。苦しいですがここで休むことなく手を動かし続けたり、周りに相談して粘り強く活路を見出すという力が大切で、この点鍛えられたと感じています。

■自身の英語力について、どのように向上していきまされたか?

豊田工業大学に入学するまでは、海外留学などの経験もなく、英会話は得意ではありませんでした。ただ、新しい英語表現を覚えたり、英語のコンテンツが少しずつ理解できるようになったり、TOEICのスコアが上がることで楽しさを感じ、それが英語学習を続けるモチベーションになっていました。在学中にはiPlazaでの学習や短期留学、神谷格教授にご協力いただいた英語の読書会などを通じて英語力を大きく伸ばせたと感じています。

卒業時にはある程度英語に自信を持てるようになっていましたが、渡米後には日常会話の表現やアクセントなどでコミュニケーションの大きな壁を感じることも多々ありました。研究などのディスカッションや授業で使われるアカデミックな英語には苦勞しなくなりましたが、壁を完全に取り去るのは今でも難しいと感じています。

英語学習に正攻法や近道はないと思いますので、英語に苦戦している方は、自分のモチベーションを保つことを優先にいろいろな方法に挑戦してみることをお勧めしたいです。

■TTICでの生活や就職活動を振り返り、今思うことは何ですか?

振り返ると、研究に行き詰まったり、

シカゴでの生活に苦勞したり、辛い場面がたくさんありましたが、それも含めて良い人生経験になったと思います。成果がなかなか出ない時期もありましたし、日本で美味しいご飯や温泉を楽しんでいる同世代を見て、「なんで自分はシカゴにいるんだろう?」と思う瞬間もありました。それでも、研究や先端技術に情熱を注ぎ、周りや切磋琢磨する環境が自分にとって楽しく、何とか博士号を取得できたのだと思います。博士課程に限らず、困難なものごとをやり遂げるには、「好き」や「楽しい」といった根底にある感情を大切にすることが重要なのだと感じました。

私は豊田工業大学での学部時代、学修を集中して行うことが多かったのですが、TTICに来て研究中心の生活になってから、閉じ籠もらずに周りに意見を求めることの大切さを強く感じるようになりました。行き詰まって、これ以上の進展は見込めないと思うようなときでも、ラボの学生や先生と話してみると思いがけない突破口を見つけられることが何度もありました。「全てを自分で解決しようとする必要はないんだ」というのは大きな学びのひとつだったと思います。これは就職活動でも同じで、人を頼ったり、人とのつながりというものがあるのが米国の就活でどれだけ大切かというのを何度も思い知らされました。

今回の就職活動では多くの人に助けられた分、今後は自分が後輩たちのつながりを広げる手助けをしようと思っています。

■博士課程への進学や海外の大学(TTICを含む)に関心のある後輩へのアドバイスをお聞かせください。

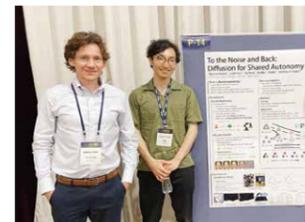
人生は一度きりですから、どこかのタイミングで思い切って興味があることに挑戦してみることは大切だと思っています。

博士課程は決して簡単な道ではなく、万人向けとは言えませんが、その過程で得られる経験は他のキャリアパスでは得られないようなユニークで面白いものです。少し大袈裟ですが、ただ一方的に世の中に知られている物事を学ぶだけでなく、未知の領域へ踏み込み、学問の発展に貢献できるチャンスがあるというのが博士課程での研究の醍醐味だと思います。

博士課程に興味がある学部1、2年生の方には、あまり分野を絞らずに、大学の講義を中心に幅広く自分の興味のままに色々な基礎を勉強することをお勧めします。その傍らで、興味のある研究室(または近い分野の研究室)に顔を出したり、先輩の話を聞いたりすることで、将来の方向性をイメージしやすくなります。学部3年生以上の方は、研究室での研究経験を積むことが大切だと思います。研究に打ち込むことで、研究生活が自分に向いているかどうかを見極めることができ、また、大学院(特に海外)を受験する際にもどれだけしっかりした研究経験があるかというのは合否を大きく左右するはずですよ。

海外の大学受験に本気で興味があるなら、(TTICであれば特に)豊田工業大学の教職員の方々さまざまな面で強力なサポートをさせていただきます。遠慮せずに早い段階から情報収集を始めることが大切です。先輩や先生方に相談し、サポートを得ることで、挑戦への道が開けると思います。

米田さんのインタビュー完全版はこちらからご覧いただけます。



FILE-01 組織

学校法人トヨタ学園役員・役職について

5月27日開催の理事会において、下記役員が選任されました。

学校法人トヨタ学園 役員一覧

(2024年7月1日現在)

理事長	増田 義彦	学校法人トヨタ学園	理事長
常務理事	中川 優	学校法人トヨタ学園	常務理事・法人事務局長
学長理事	保立 和夫	豊田工業大学	学長
理事	内山田 竹志	トヨタ自動車株式会社	エグゼクティブフェロー
	江口 勝彦	株式会社テクノバ	代表取締役
	金出 武雄	カーネギーメロン大学	創始者記念全学教授
	栗原 和枝	東北大学	未来科学技術共同研究センター教授
	佐々木 一衛	株式会社豊田自動織機	元取締役副社長
	進藤 孝生	日本製鉄株式会社	取締役相談役
	日比谷 潤子	国際基督教大学	名誉教授
	松本 洋一郎	東京大学	名誉教授
監事	山中 康司	株式会社デンソー	元取締役副社長
	鬼頭 潤子	鬼頭潤子公認会計士事務所	所長
	濱田 道代	名古屋大学	名誉教授

豊田工業大学 役職者一覧

学 長	保立 和夫
副 学 長	大石 泰丈
学生部長	齋藤 和也
総合情報センター長・ 附属図書館長	大石 泰丈
事務局長	下村 幸敬

人事紹介

新 任



情報通信研究室

森 洋二郎 教授

2013年4月 名古屋大学 特任助教
2014年4月 名古屋大学 助教
2020年4月 名古屋大学 准教授
2024年9月 本学教授に着任

主な研究分野

人工知能などの通信ネットワークを活用したアプリケーションが普及することで、通信需要が急速に増加しています。それに伴い、通信の基盤となる光ファイバネットワークの大容量化が急務となっています。光ファイバの伝送解析や光デバイスの開発、光ネットワークの設計といった多方面からのアプローチにより、ネットワークの通信容量の限界に挑戦しています。

FILE-02 ビジョン

豊田工業大学長期ビジョン(2024-2038)を策定

今後の更なる発展を目指し、新たに「長期ビジョン2024-2038」を策定しました。このビジョンは、これまで培ってきた本学の特徴・強みに磨きをかけるとともに、新たな挑戦に取り組むための重要な指針です。本学Webページから詳細をご覧ください。

紹介ページはこちら



FILE-03 定員変更

2025年4月から修士課程の収容定員を増員

2021年4月に学部の定員を増加し、この度修士課程の入学定員および収容定員の増員を文部科学省に申請し、右記の通り変更しました。

大学院工学研究科 修士課程	変更前	変更後 (2025年4月~)
入学定員	45名	50名
収容定員	90名	100名

FILE-04 教育情報

「認定教育プログラム(応用基礎レベル)プラス」に、本学が中部地方で初選定

本学の教育プログラムが文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」において、「認定教育プログラム(応用基礎レベル)プラス」に選定されました。「応用基礎レベルプラス」は、「応用基礎レベル」の認定を受けたプログラムの中でも、先導的かつ

独自の工夫や特色を持つものが対象です。本学は2023年度に「応用基礎レベル」の認定を受けており、その取り組み内容が評価され今回選定されました。なお、同選定は今年で3年目を迎え、これまでに国立大16件、公立大1件、私立大5件が選ばれています。

●文部科学省:「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル・応用基礎レベル)」の認定・選定結果について https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/mext_00005.html

本学の教育プログラムはこちら



FILE-05 授業紹介

学部1年生を対象としたオープンラボを開催(6/8)

学部1年生を対象とした研究室紹介「オープンラボ」を開催しました。少人数のグループに分かれ、事前に機械システム・電子情報・物質工学の3分野の研究室の内容を確認したうえで参加します。各研究室を実際に訪問し、教員や研究員・大学院生から研究の内容について、直接

見て、聞くことで、自身が学びたいこと、進みたい方向を考える機会となります。オープンラボは、必修科目「工学スタートアップセミナー」の一環として実施され、工学を学ぶ意義や工学が社会でどう役立つのかを実践的に伝える機会を設けることで、学生の学修意欲の向上につなげています。



FILE-06 授業紹介

第14回TTIイノベーションコンテスト開催(7/15)

本コンテストは、1年次の必修科目「工学スタートアップセミナー」のひとつです。学部1年生(96名)を16チームに編成して、実際に学生寮で共同生活を送る学生が中心となって、寮生活の中で抱える身近な課題を自由な発想と創意工夫を活かしながら競い合うイノベーションコンテストを行いました。各チームは、課題の設定から解決策の検討、試作・改良までの過程を3分程度の映像に

まとめて発表します。優勝チームは、家庭でも問題となる「ゴミ袋からの匂い漏れ」に対処する装置を開発。自作のホットシーラーでゴミ袋の口を溶着し、匂いの拡散を軽減することに成功しました。実家住まいでは気づかなかった日常の課題を発見し、改善することができました。課題に取り組んだ学生からは、「苦労も多かったが、それ以上に学びが多かった」「親のありがたみを感じた」「モノづくり



の楽しさを実感した」などの感想が寄せられた。

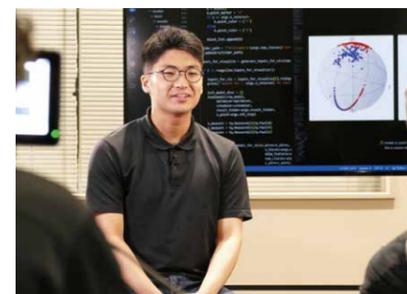
FILE-07 メディア

人間の文明を一段階向上させるエンジニアになること

東海テレビのミニ番組「ミライCREW」で本学修士課程1年(知能情報メディア研究室)の松本一希さん(可児工業高等学校[岐阜県]出身)が紹介されました。この番組は豊かな未来の創造のために、日々挑戦を続けている学生たちにスポットを当て、その夢と夢に向かって突き

進む原動力に迫るミニ番組で、松本さんは、量子技術を活用した次世代の人工知能(AI)技術である「量子人工知能」の研究に取り組んでいます。(放送日:9月30日)

松本さんの動画はこちら



1. 学校法人が作成する計算書類について

学校法人会計基準に基づいて作成する計算書類には大きく分けて、以下の3種類がある。

■ 事業活動収支計算書(表1)、収入と支出の構成グラフ(図1)

教育活動および教育活動以外の経常的な活動、並びに臨時的活動(特別収支)の3つの活動における収支状況を明確にする。

■ 資金収支計算書(表2)

当該年度の諸活動に対応するすべての資金の収入・支出の内容を知ることが可能。

■ 貸借対照表(表3)

当該年度末における資産、負債、純資産(基本金、繰越収支差額)の状態、つまり学校法人の財政状態を知ることが可能。

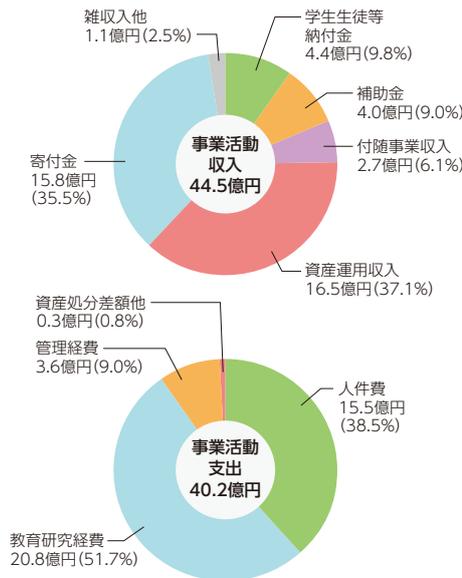
2. 事業活動収支計算書について

(表1) 2023年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目		予算①	決算②	差異(②-①)	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	432,654	435,062	2,408
		手数料	33,399	43,851	10,452
		寄付金	1,522,000	1,522,417	417
		経常費等補助金	411,688	402,589	△9,099
		付随事業収入	274,156	273,327	△829
	雑収入	49,121	65,111	15,990	
	教育活動収入計	2,723,018	2,742,357	19,339	
	支出の部	人件費	1,550,349	1,548,211	△2,138
		教育研究経費	1,032,766	957,310	△75,456
		管理経費	258,793	260,978	2,185
減価償却額		1,211,252	1,223,201	11,949	
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計	4,053,160	3,989,700	△63,460		
教育活動収支差額	△1,330,142	△1,247,343	82,799		
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	1,247,272	1,523,671	276,399
		その他の教育活動外収入	81,075	129,376	48,301
	教育活動外収入計	1,328,347	1,653,047	324,700	
	支出の部	借入金等利息	1,500	1,500	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	1,500	1,500	0		
教育活動外収支差額	1,326,847	1,651,547	324,700		
経常収支差額	△3,295	404,204	407,499		
特別収支の部	収入の部	資産売却差額	812	812	0
		その他の特別収入	92,445	57,292	△35,153
		特別収入計	93,257	58,104	△35,153
	支出の部	資産処分差額	35,709	30,176	△5,533
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	35,709	30,176	△5,533
	特別収支差額	57,548	27,928	△29,620	
基本金組入前当年度収支差額	54,253	432,132	377,879		
基本金組入額合計	△298,982	△335,896	△36,914		
当年度収支差額	△244,729	96,236	340,965		

(図1) 収入と支出の構成グラフ



■ 2023年度 決算概況

【予算との主な差異】
主に受取利息・配当金が増加したほか、円安の進行に伴い償還された米国債に為替差益(その他の教育活動外収入に計上)が発生した。また、省エネ活動による電気代の削減等により支出が減少し、収支差は予算と比べて3.4億円改善し、1.0億円の収入超過となった。

3. 資金収支計算書および貸借対照表について

(表2) 2023年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生納付金収入	435,062	人件費支出	1,571,403
手数料収入	43,851	教育研究経費支出	956,508
寄付金収入	1,522,417	管理経費支出	262,523
補助金収入	402,588	借入金等利息支出	1,500
資産売却収入	485,643	施設関係支出	132,142
付随事業・収益事業収入	273,327	設備関係支出	331,642
受取利息・配当金収入	1,523,672	資産運用支出	668,218
雑収入	194,487	その他の支出	1,921,353
前受金収入	110,780	資金支出調整勘定	△ 529,460
その他の収入	1,524,863	翌年度繰越支払資金	16,153,210
資金収入調整勘定	△ 146,159		
前年度繰越支払資金	15,098,508		
収入の部合計	21,469,039	支出の部合計	21,469,039

(表3) 2023年度 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		負債および純資産の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	56,076,881	固定負債	877,827
有形固定資産	21,188,359	退職給与引当金	429,919
土地・建物・構築物	18,661,355	長期未払金他	447,908
教育研究用備品	1,917,343	流動負債	635,486
図書	559,587	未払金	511,329
その他	50,074	その他	124,157
特定資産	33,649,542	負債の部合計	1,513,313
その他の固定資産	1,238,980	第1号基本金	34,543,167
長期貸付金	657,050	第2号基本金	1,100,000
その他	581,930	第3号基本金	32,119,623
流動資産	16,225,164	第4号基本金	270,000
現金預金	16,153,210	基本金合計	68,032,790
その他	71,954	繰越収支差額	2,755,942
資産の部合計	72,302,045	純資産の部合計	70,788,732
		負債および純資産の部合計	72,302,045

編集後記

トヨタ自動車の社内において本学の卒業・修了生の皆さんで組織される「久方会」の集会を開催したとの嬉しい報告をいただきました。今後も「久方会」が発展し、卒業・修了生の皆さんの絆が、より一層深まることを楽しみにしております。